

○新型コロナウイルスに関する研究について、AMEDの令和元年度予算の執行残及び令和2年度調整費等において実施予定。
なお、既存薬の治療効果確認等は、予備費を使用し、厚労省が厚生労働科学研究(厚労科研)により実施予定。また、疫学研究等は文科省が実施する科学研究費助成事業(科研費)(特別研究促進費)により対応予定。
○これまで我が国の研究者が行ってきたSARS及びMERS等に関する知見等を踏まえ、次のテーマで研究開発を速やかに開始する。

直ちに開始

9.8億円



診断法開発

- ①検査用試薬の同等性検証 (3百万)
感染研での既存検査と検査用試薬について、感度・特異度等の同等性検証を実施
- ②感染研における検査体制強化(予備費) (977百万)
感染研での検査機器の導入や試薬の購入、技術員の雇い上げ等検査体制を強化



診断法開発

- ①迅速診断キットの基盤的研究開発 (80百万) 感染研
LAMP及びイムノクロマト等による迅速診断キット開発に必要なゲノム解析及び関連技術開発を実施
- ②血清抗体診断系開発 (42百万) 感染研
COVID-19に特異的なELISA法等を開発。加えてその関連技術を開発
※海外研究拠点で得られる臨床検体を活用したウイルスの分離や性状解析を実施(J-GRID海外研究拠点)

治療法開発

- ①in silico 解析による治療薬候補の選定 (BINDSインシリコユニット)
構造解析技術等による既承認薬等から低分子治療薬候補を選定
- ②抗ウイルス薬開発 (90百万) 感染研+東大医科研
SARS等に対する感染複製阻害薬候補等を用いた抗ウイルス作用の検証による治療薬候補を特定。加えてin vitroや感染動物モデル等の評価系を開発

4.6億円

ワクチン開発

- ①組換えタンパクワクチン開発 (100百万) 感染研
組換えタンパク合成系を用いたワクチン抗原とアジュバントを組合せたワクチン候補の作製と関連技術を開発
- ②mRNAワクチン開発 (150百万) 東大医科研
mRNA技術を応用したワクチン候補を作製。加えてその関連技術を開発



厚労科研

5.4億円

既存薬の治療効果確認・診断キット普及等

- ①既存の抗HIV薬の治療効果及び安全性検討(予備費) (350百万) 国際医療センター
医師主導治験により既存薬の治療効果及び安全性を検証の上、使用方法を策定
- ②企業と連携した迅速診断キットの抗体等の作製(予備費) (140百万)
迅速診断キット開発企業と抗体作製等の作製技術を開発し、使用基準を策定
- ③COVID-19感染症に係るリスク因子の特定 (15百万) 感染研
- ④全国のCOVID-19感染症の発生動向の把握 (予備費) (30百万)



科研費(特別研究促進費)

疫学研究等

- ①アジア諸国におけるCOVID-19感染症に関するデータの収集等

令和2年度以降(成果のあったものについて)

診断用医薬品・迅速診断キットの薬事申請準備

企業導出により上市を目指す

ウエット系を用いたPOC確立、前臨床試験及び臨床試験の実施

感染動物モデル等を用いたPOC確立、前臨床試験及び臨床試験の実施

治療法の検討、診断キット普及、ウイルス感染等の因子の解明